

経営協議会議事録
(令和4年度第2回)

令和4年6月27日(月)
13時00分から14時50分まで
法人本部3階 第一会議室

出席者

議長 玉手英利
委員 相澤益男 伊藤真知子 里村正治 鈴木道子 西海和久 萩原なつ子
長谷川真理子
飯塚博 出口毅 矢作清 根本建二 花輪公雄 瀧瀬晃 佐藤慎哉

列席者

副学長 林田光祐 大森桂 羽鳥政男
監事 渡辺均

欠席者

委員 小林裕明 吉村美栄子

- 1 経営協議会議事録(5月26日開催)の確認
玉手学長から、本会議事録(5月26日開催)について確認があり、議事録が了承された。
- 2 【協議】第3期中期目標期間終了時評価に係る報告書の提出について
花輪理事から、国立大学法人評価委員会へ提出する「業務実績報告書」及び大学改革支援・学位授与機構へ提出する「中期目標の達成状況報告書」について審議願うものである旨説明があった。
次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

本件に関して、主な意見は次のとおり。

- ・女性管理職比率は大学の意欲があれば達成できる項目であり、目標設定及び戦略に問題はなかったか検討すべきである。
- ・大学として特に力を入れていく目標を設定し、その目標に対して達成度を上げていくべきである。
- ・時代の流れとしてオンライン講義と対面を両立することが求められているなか、山形大学としてはどのような考えで、どのような比率で講義をやっていくのか伺いたい。
- ・業務執行組織図を見ると、本部と部局の意思決定コミュニケーションが書かれてない。部局の意思決定と、それを昇華したかたちでの本部意思決定の流れが明確になっていないのではないか。
- ・地元就職率の向上については、山形大学だけで解決できる課題ではない。学生の意識として「この地域で働きたい」と思えるよう地域と協力して取り組んで欲しい。
- ・「判断できる人材」を育てなければならない。最終的には学生が自分の人生として就職先を判断する。そのために、大学が地元企業を含め様々なチャンスを提供できると良いのではないか。
- ・学生が多様化しているにもかかわらず、「就職率100%」「地元出身率向上」を目標としている。そのような数値は外から見て魅力的ではない。

- 3 【報告】キャンパス経営力評価(共通指標評価)について
学長から、議題に関して、報告があった。

本件に関して、主な意見は次のとおり。

- ・今回評価の方法が変わっているが、学系ごとに専任教員数で加重平均して評価するのは良いマネジメントとは言えない。頑張った人のモチベーションが上がるような評価をすべきである。

- 4 【報告】令和3年度監事監査結果報告書について
渡辺監事から、議題に関して、報告があった。
- 5 【報告】職員の懲戒について
羽鳥副学長から、議題に関して、報告があった。
なお、資料については個人情報等の記載があるため会議時のみ閲覧可能とし、会議終了後回収された。

本件に関して、主な意見は次のとおり。

- ・ハラスメントが起こってから対応するのではなく、起こらないような環境にすべきである。
- ・研究費不正の問題は、大学としての対応が非常に重いものである。
- ・外部から見て、捉え方が甘い。教職員に対し、今一度厳しく示していくべきである。

- 6 【報告】地域連携プラットフォーム設置の進捗について
玉手学長から、議題について、資料の閲覧による報告とする旨説明があった。
- 7 【報告】令和3年度決算における監査報告の結果について
玉手学長から、議題について、資料の閲覧による報告とする旨説明があった。

次回は、令和4年9月21日（水）に開催することとなった。